

●竹蛇籠の製作

9月13日に製作に取り掛かって19回の作業日で31本の蛇籠を作り上げました。参加者は延べ77人で17の方が参加されました。そのうち女性は4人でした。使用した真竹の数は73本でした。おおよそ1日の製作本数は1.6本になります。半分を作り上げましたので、成果物の数が増えると残数が減ってあと少しと楽しくなります。まさに先が見えてきたのです。

過日同志社大学4回生の都築さんが製作に参加された感想では、力が必要で初めての経験では、スムーズに取り組むのが難しいとのことでした。11月7日には仲間10人ほどが参加予定とのことですが、多分この調子で製作が続きますと目標の60本は完成しているのではないかと思います。予定では11月7～8日は中聖牛の組立ての予定になっており、棟木を立てる作業に人力が必要なので、願ったりかなったりで大変好都合になります。

また、10月17日18日にはNHKが竹蛇籠の製作の撮影に来られる予定になっています。竹の選別、切り出し、笹落とし、運び出し、運搬、そして竹割、最後のヒビ入れと幅精製まで行って、材料が揃うことになります。ここから底辺の編みが始まります。初体験の場合ここで混乱が起こります。ひとつの山場です。続いて胴編みになって重なりこじ合って強い竹籠になります。一回りして7本目の立て骨を加えると複雑になって、本格的な網目になり、要領は繰り返しになり調子がついてきます。長さの予定が2.5mまで10回胴巻きを行います。大抵8回くらいまでになってしまい大きな網目の籠になってしまいがちです。そこでリーダーがしっかり胴巻き竹を金づちで叩き、空間を詰めなければなりません。この作業を手抜きすると蛇籠の編み目が大きくなって、石詰をするときに大きな石が必要になります。空間ができて重石が軽くなってしまいます。急所ですのでここはお互いに気をつけて編み上げていきましょう。均一な材料で美しく仕上げましょう。立派なきれいな整った竹蛇籠が出来上がると、やったーと久しぶりに満足感を味わえます。常日頃なかなか感じられない充実感を手にすることができます。力を合わせ頑張ってください。

●新型コロナウイルス感染症の予防のためオリンピックの延期がされ、学校が休校になり、府県を超えた移動が出来なくなって、予想を超える事態が引き起こされ、雇い止めが横行し、産業経済に大きな打撃があり、先の見えない状況が続いています。世界中で3523万人の感染者、死亡した人数は1043,945人となっています。経済に影響が出て、対策が行われていますが、殺人事件まで発生するところまで来ています。もちろん廃業や倒産も続き先の見えないものになっています。里山の会も対応策に苦慮しています。事務所がある京田辺市の感染者数は京都府内では3番目の多さの自治体になってしまいました。

●河川協力団体に承認されていますが、木津川希少種植物調査管理業務の受注が3年目の取組みになりました。公募されて申請して決定されるものです。現在木津川には40カ所の絶滅の心配がされる植物が生育しているので、一般に行われる除草作業は年間2回計画され、希少植物が開花している最中に除草されるので、絶滅に手を貸すことになるので、除草時期を花が咲き終わった後に行うことになるのでそれを業務発注ということで里山の会が除草作業を行っています。恭仁大橋から八幡市の御幸橋近くまで24kmの範囲での作業なので大変な作業量になっています。そして適宜に開花しているのかどうかの調査も実施することになります。里山の会の植物部会の有志の方々によって、生育調査が毎月の行動として行われています。まさに仕事として実施するのではなく、貴重な植物を絶滅させないという愛情、木津川堤防に残された貴重な植物・豊かな木津川の自然を大切にしたい気持ちで頑張ってください。また除草作業は、弱い植物が大きな植物の陰に隠れないように除草を繰り返し、生育していつってくれるように暑さ寒さ雨に負けないように頑張って適宜適正に除草を繰り返しています。必要によっては手刈りも必要になります。みんなで真剣に取り組んでいます。

●里山の会は25年前の1996年に任意の団体として結成されました

結成を記念して京田辺市のシンボルである甘南備山の植物観察に出かけました、その時、目にしたのがタマミズキでした。それが毎年正月3日の新春甘南備登山の頃真っ赤な実をいっぱいつけて皆さんを迎えています。それが山全体で20本程度見つかります。多くの木々が葉を落とした後、見事に赤い花と見間違ふほどのものです。甘南備山へ散歩に出かけられる折には一度周りの木々に関心を持ってください、そしてお正月の頃のタマミズキの素晴らしい姿を確かめていただければと思います。

●国の天然記念物であるイタセンパラのパンフが完成しました

里山の会は淀川水系のうちで自然のまま成育していたのが木津川でした。それも中流域のワンドであったと小川力也先生や綾史郎先生が確認をされています。里山の会は、今年トヨタ環境活動助成プログラムの助成金に申請をしたところ全国で6団体の一つとして99万円の支援を受けることに決定を頂きました。さあ活動を始めようとしたところ、例のコロナウイルスによる感染予防のために身動きが取れなくなりました。理由を述べて来年度に主な活動に移すことの許可を受けて、来年度本格的な取組みを考えております。しかし今年は何もしないのではなくて、多くの皆様に天然記念物であり、生育地は全国で3か所と言われている折、4カ所目の生育地を復元するために、パンフレットを作成しました。近畿では大阪で復元定着させるために活動されている先生方の知恵をお借りしてパンフレットを作成しました。事務所や公共の窓口に置かせてもらっておりますので、ぜひご覧ください。必要なお方には差し上げますのでお越しいただければと思います。

イタセンパラはイシガイやドブガイなど二枚貝に卵を産み、冬を越して5月ごろに貝から出て秋に産卵するという魚です。だから貝が必要になります。またこれらの貝の増殖には貝の卵を運んでくれる魚がいないと増殖ができないのです。すなわち豊かな自然が無いと生存できないのです。多様な生き物が生息しているという証明になるのがイタセンパラなのです。近年肉食の外来魚であるブルーギルやブラックバスが大繁殖していて環境が悪化しています。こうした環境の復旧を実現しないとイタセンパラの復元は無理なのです。それと密漁からの防止も大きな課題でもあります。こうした問題点についてご理解いただける皆さんのためにこのパンフレットをご利用いただけたらと思っています。

●9月25日付けで、京都府で絶滅の恐れのある生き物の保全に関する条例に基づく保全団体の登録がされました

京都府では25種が指定されています。里山の会はそのうちレンリソウとフナバラソウ、カスミサンショウウオの3種についての保全団体とされています。2007年に故鈴木由紀枝さんが絶滅していたというレンリソウを発見しました。フナバラソウも危機に瀕していました。そしてカスミサンショウウオの卵嚢を発見しました。その折りには京都府ではそのままにしておくということが方針だったようです。その後この制度が出来て指定された25種のうち3種について保全団体になったのです。こうした条例ができるきっかけになったのです。今年からこれらの保全のための経費を申請しようと思います。通常経費や明示看板、啓発のチラシやパンフを作成できればと思います。多くの皆さんが山城地域に誇れる貴重な生き物を大切にする里山の会にご参加いただきご協力をお願いします。これこそ里山の会のスローガン「自然を大切にする仲間の輪を大きくする」実践です。力をお貸してください。あなたのご協力に期待しています。

●過日お願いしました会費の未納者の皆さんから10名の納入を頂きました

あと20名の皆さんになっています。ご協力いただきました皆様ありがとうございました。現在未納の皆様のご協力をお願いします。それから25周年を迎えていますので、これまでの最高の会員数は256名だったのです。この機会の多くの皆様のご加入をお願いいたします。この最高会員数を突破して自然を大切にする仲間の輪を大きくして、どこでも話題になる会活動の展開を広げたいと思います。現在、中聖牛の設置を第4群3基の設置に取り組んでいます。戦国武将は武力で領土拡張を目指していたようですが、自国領土での災害水害をいかに防ぐかが大きな仕事でもありました。あの武田信玄が取り組んだ聖牛を伝統河川工法として自然に優しい土木工法として復元しようと頑張っています。NHKが10月17・18日に取材に来られます。皆様も一緒に竹蛇籠に取り組んでみませんか、お越しをお待ちしています。

●イタセンパラのパンフレットを里山の会の週刊ユースでご紹介をさせていただきます
ご期待ください。今週は表紙を掲載いたします。



パンフの掲載内容 （次週から掲載いたします）

イタセンパラってどんな魚？
イタセンパラの1年
イタセンパラ絶滅の原因はなに？
河床低下ってどういうこと？
ワンド溜まりのような生き物が済みやすい環境
つくり

中聖牛
中聖牛設置河川敷に生息する生き物たち
やましろ里山の会の活動
木津川的主要魚類
木津川の絶滅寸前種植物